

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-138	高等学校	外国語	コミュニケーション英語 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
226 チアーズ	コ I ・ 357	ATLANTIS Hybrid English Communication I Standard		

1. 編修の趣旨、及び留意点									
<p>一 外国語を通じてコミュニケーション能力を総合的に育成するため、実際の言語使用場面や言語の働きに留意した。特に外国語を日常使用している人々にとって自然な表現であることに重きを置き、本書の英語に触れることで、生きた英語が身に着き、また運用できるよう配慮した。</p> <p>二 レッソンの主題となるトピックを入念に選定した。生徒の日常に身近な題材を選ぶことで、興味関心を高めることをねらいとする。また、多様なものの見方や考え方を養うとともに、公正な判断力が養えるような題材にも挑戦した。様々な価値観に触れることで、国際社会に生きる日本人としての自覚を高め、また自分の意見を表現し、社会に参画できるような態度が育成できるよう工夫した。</p>									
2. 編修の基本方針									
<p>教育基本法第二条の目的を達するために、以下を編修の基本方針とした。</p> <p>一 言語の特性を幅広く学びながら、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成できる内容とする。</p> <p>二 多様な価値観を学んだり、その内容を他者と交換し合ったりすることやペアワーク等で、互いの意見が尊重される経験を積み重ねられるよう留意する。</p> <p>三 英語の実用性等を学ぶ中で、自他の違いを重んじる態度を育み、主体的に社会に貢献しようとする態度を養える内容とする。</p> <p>四 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を育成するため、世界を舞台とした題材を展開することで、視野を広げることができるようにする。</p> <p>五 進んで外国の文化を理解しようとする態度を育成するとともに、国際理解や国際感覚を養い、国際社会に関心が持てるような内容を厳選する。</p>									
3. 対照表									
A 目次順にそった対照表									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>図書の構成・内容</th> <th>特に意を用いた点や特色</th> <th>該当箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>辞書の使い方とアルファベットに慣れ親しむ。</td> <td>アルファベットに慣れ親しむために、大文字と小文字を並べて記載した。また、辞書のページにはペーパー版の辞書と電子辞書の両方の使い方を紹介し、生徒にとってより身近な題材となるよう意を用いた。(第1号)</td> <td>1～2 ページ</td> </tr> <tr> <td>英語の長母音短母音や子音について、写真やヒントを通して学ぶ。</td> <td>日本人にとって混同しやすいカタカナ発音との違いにできるだけ気づけるよう留意した。(第1号)</td> <td>3～4 ページ</td> </tr> </tbody> </table>	図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所	辞書の使い方とアルファベットに慣れ親しむ。	アルファベットに慣れ親しむために、大文字と小文字を並べて記載した。また、辞書のページにはペーパー版の辞書と電子辞書の両方の使い方を紹介し、生徒にとってより身近な題材となるよう意を用いた。(第1号)	1～2 ページ	英語の長母音短母音や子音について、写真やヒントを通して学ぶ。	日本人にとって混同しやすいカタカナ発音との違いにできるだけ気づけるよう留意した。(第1号)	3～4 ページ
図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所							
辞書の使い方とアルファベットに慣れ親しむ。	アルファベットに慣れ親しむために、大文字と小文字を並べて記載した。また、辞書のページにはペーパー版の辞書と電子辞書の両方の使い方を紹介し、生徒にとってより身近な題材となるよう意を用いた。(第1号)	1～2 ページ							
英語の長母音短母音や子音について、写真やヒントを通して学ぶ。	日本人にとって混同しやすいカタカナ発音との違いにできるだけ気づけるよう留意した。(第1号)	3～4 ページ							

コミュニケーションに必要な道具、と題してコミュニケーションの基礎的基本的な知識を復習する。	生徒にとってより身近で、よく知っていると思われる単語、かつ実際の英語使用場面においてもよく使われる単語を厳選し構成した。(第1号) 英文はすべて日常場面で用いられる自然な表現とした。(第1号)	5～12 ページ
Warm-up と題し、be 動詞と一般動詞の肯定文・疑問文・否定文についてまとめる。	英文の基本となる肯定文、疑問文、否定文について、be 動詞、一般動詞、及び、WH 疑問詞を用いて比較することで理解を深められるよう留意した。(第1号)	13～ 18ページ
Classroom English を導入する。	教室でよく使う表現についてまとめた。(第1号)	19ページ
Lesson 1 – Welcome to Japan! 高校交換留学生を迎える。	日本に来た外国人交換留学生に日本の生活についてアドバイスをする。日本の良さや素晴らしさを知り、また外国人を受け入れる素養を身につけることをねらいとした。(第5号)	20～ 26ページ
Lesson 2 – How was your vacation? 南国の楽園を訪れる。	英語圏の人々がよく使う表現の1つとして How was your vacation?がある。この表現に慣れ親しんでもらうことをねらいとしつつ(第1号)、生徒自身も南国の楽園を旅行していると想像力を膨らませたり、実際に自分自身が過去において友達や家族と一緒に行った旅行について表現したりできるよう意を用いた。(第2号)	27～ 31ページ
Lesson 3 – Nature's Symphony 自然の美しさを味わう。	自然の美しさを知り、皆既日食や皆既月食について学び、自然へ畏敬の念を深められるよう工夫した。(第4号)	36～ 41ページ
Lesson 4 – Technology of the Future 20年後のテクノロジーを想像する。	近い将来の科学技術の進歩とその発展について想像しながら、自分自身の身の回りにある生活と関連づけて考察し、科学技術の恩恵を知ると共に、その負の側面についても考えられるよう意を用いた。(第2号)	42～ 47ページ
Lesson 5 – Video Games 子供たちに与える好影響と悪影響について討論する。	生徒にとって身近な題材であるテレビゲームについて考え、特に子供たちに与える影響について討論することで問題意識を高められるようにした。(第1号)	48～ 53ページ
Lesson 6 – Making a Difference 困っている人を助ける。	貧しい国の孤児を助けるなどの、ボランティア活動体験者のエピソードを読むことで、自他の敬愛と協力を重んじる精神を育み、自分には何ができるかを考えられるよう意を用いた。(第3号)	60～ 65ページ
Lesson 7 – Lingua Franca 英語の実用性について考える。	世界中の人々がどのように英語を使っているかを知り、英語の有用性について理解できるよう同年代の意見を紹介した。英語の有用性が職業選択にも関与する点を考察できるよう意を用いた。(第2号)	66～ 71ページ

Lesson 8 – Countries and People of the World 様々な国について学ぶ。	英語圏だけではなく、世界中の国々、人々、文化についての知識とその見解を深めることで、価値観の多様性を学べるよう意を用いた。(第1号)	72～ 77ページ
Lesson 9 – Lake Como この世で最も美しいと言われる場所について学ぶ。	日本ではあまり馴染みのない観光地、イタリアのコモ湖を紹介することで、世界には多くの美しい場所があるということを知る機会を促した。(第1号)	78～ 83ページ
Lesson 10 – Great Monuments 2つの偉大な建造物について学ぶ。	世界の有名な古代遺跡とその地理的関連性を学び、また、自由の女神像とエリス島の背景知識を学べるよう意を用いた。(第1号)	90～ 95ページ
Lesson 11 – Tigers 野生トラの苦しい現状について知る。	野生トラの苦しい現状について知り、原因をひも解く中で、生命を尊び、環境の保全に寄与する態度が養われるよう配慮した。(第4号)	96～ 101ページ
Lesson 12 – I wish life were simple. 人生において何が欲しいかを考える。	自分自身の人生について一歩深めて考えられるよう、4人のエピソードを紹介した。読み深める中で、自尊心が高まったり、勤労を重んじる態度が育めたりするよう意を用いた。(第1号)	102～ 107ページ
Reading – Wolfgang Amadeus Mozart モーツァルトの生涯を読み深める。	モーツァルトは200年以上も前の偉人であるが、彼の人生と現代の若者の人生には多くの共通点がある、という着眼点で展開させた。彼の悩みや苦悩を読み解く中で、多くの気づきが与えられるよう意を用いた。(第1号)	113～ 120ページ
Review 1, 2, 3 – 各レッスン等の復習をする。	各レッスン等の復習をする。学んだことがより定着するよう3回の復習パートを設けた。(第1号)	32～35 ページ、 54～59 ページ、 84～89 ページ、 108～1 12ページ
Grammar in Daily Use – 学んだ文法事項が、実際の生活場面においてどのように使われているかを学ぶ。	本書の特色である、執筆者がネイティブスピーカーである、という点を活かして、学んだ文法事項が実際にどのように使われているのか、を本文とは異なった文面で紹介することで、生きた英語に触れていることをより実感できるよう意を用いた。(第1号)	58ページ、 88 ページ、 111ページ
Sing a song – You are my sunshine, Scarborough fair, Oh, Christmas Tree, Amazing Grace を通して、英語の歌や文化的背景に慣	英語の歌を通して、より英語学習に興味関心が持てるよう意を用いた。(第1号)	35ページ、 59 ページ、 89ページ、 11

れ親しむ。		2 ページ
List of Common Irregular Verbsーよく使う不規則動詞を一覧にして学ぶ。	学習した内容の理解が深まるよう一覧化した。(第1号)	1 2 1～ 1 2 2 ページ
Word/Phrase Listー本書であつかう語句を一覧にして学ぶ。	本書に出てくるすべての英単語を網羅した。また、辞書を使うことを促し、自立した学習態度を育成するため、適宜空所を設けた。(第1号)	1 2 3～ 1 3 2 ページ
Pronunciationー発音を図と簡単な解説でイメージ化して学ぶ。	図、写真、簡単な説明を使用し、できるだけシンプルにした内容で発音指導ができるよう意を用いた。(第1号)	1 3 3～ 1 3 4 ページ

B.各レッスンの構成

Cover pageーレッスンに関連する簡単な質問や写真を通してレッスンへの予備知識を高める。	英語を通して幅広い知識と国際感覚が養えるよう意を用いた。(第1号)	各レッスン1 ページ目
Visual Warm-Upー写真や図をヒントに、簡単な英文をつくる。レッスンに関連したトピックについての興味関心を高め、題材への理解を深める。	レッスントピックに深く関わる問題文を厳選した。様々な価値観が学び視野が深まるよう意を用いた。(第2号)	各レッスン2 ページ目
Grammarー文法を先に学習することで、Reading 導入への抵抗感を和らげ、スムーズな移行を図る。	英語の言語の特性をできるだけシンプルに学べるよう意を用いた。(第1号)	各レッスン3 ページ目
Readingーreading の題材だけにできるだけ集中して学ぶことによって、内容理解を深めたり自分の考えを広げたりする。	様々な題材に触れることで、国際感覚を養い、また他国を尊重し、国際社会についての視野が広がるような内容を厳選した。(第5号)	各レッスン4～5 ページ目
Listening, Writing, Speakingー学習した内容をもとに、情報や考えを理解したり、概要や要点をとらえたりする。	レッスンのトピックに関わる内容と、自分自身のことについて学べる内容をバランス良く配置した。ペアや3～4人のグループ、クラス全体で行う活動を行うことで、自他を尊重する態度を養えるよう意を用いた。(第3号)	各レッスン6 ページ目

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	箇所
Lesson 3 - Nature's Symphony 自然の美しさを味わう。	基本的な自然現象や、特殊な自然現象である皆既日食や皆既月食等の生活にかかわる自然現象について学び、他教科と有機的に学べるよう意を用いた。(学校教育法第二章七)	36～ 41ページ
Lesson 6 - Making a Difference 困っている人を助ける。	海外におけるボランティア精神についての正しい知識を広げ、公共の精神に基づき、自分自身が主体的に社会に参画し行動できるよう意を用いた。(学校教育法第二章一)	60～ 65ページ
Sing a song - You are my sunshine, Scarborough fair, Oh, Christmas Tree, Amazing Grace を通して、英語の歌や文化的背景に慣れ親しむ。	英語の歌を通して、その文化的背景や言語の特性等を理解できるよう意を用いた。(学校教育法第二章九)	35ページ、 59ページ、 89ページ、 112ページ

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-138	高等学校	外国語	コミュニケーション英語 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
226 チアーズ	コ I ・ 357	ATLANTIS Hybrid English Communication I Standard		

1. 編修上特に意を用いた特色

特色 1 ・ 繰り返しによる学習。

基礎的・基本的な知識・技能をしっかりと身に付けさせるため、導入から展開へ、少しずつつながりや広がりを持てるよう意を用いた。例えば、トピックに関する事項や問題がレッスン全体に渡ること、語彙を少しずつ紹介し、本文では新しい文章の中に組み込まれること、重要文法事項が本文に1度だけではなく、何度も出てくるよう、かつそれが外国語を日常使用する人々にとって自然な表現であることに留意した。

特色 2 ・ 段階を追った発展的な問題。

学んだ内容を、個人からペアワーク、3～4人のグループワーク、そしてクラス全体で意見交換できるような構成とした。少しずつ発展的な問題に取り組むことによって、自ら考え、判断し、表現する力が身に着くよう、またその過程で少しずつ外国語学習に自信が持てるよう配慮した。

特色 3 ・ 継続的な学習意欲の育成。

自主的に学習に取り組み、外国語に興味・関心が強まるよう、外国語を使用している人々を中心とする世界の人々やその世界観をふんだんに味わうことができるような構成とした。視覚に訴える写真、図、題材、問題等が、学習意欲を継続させることを期待する。

2. 対照表

A. 各レッスンにおける構成とその対照表（1レッスンにおける授業時数）

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
1. Cover Pageーレッスンに関連する簡単な質問や写真を通してレッスンへの予備知識を高める。	内容（1）ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。	各レッスン1ページ目	1
2. Visual Warm-Upー写真や図をヒントに、簡単な英文をつくる。レッスンに関連したトピックについての興味関心を高め、題材への理解を深め	内容（1）ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 内容（2）ア	各レッスン2ページ目	

る。	リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。 内容（２）ウ 事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすること。		
3.Grammar－文法を先に学習することで、本文導入への抵抗感を和らげ、スムーズな移行を図る。	内容の取扱い（２） 生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動を経験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図るよう配慮するものとする。	各レッスン３ページ目	1
4.Reading－本文の題材に集中して学ぶことによって、内容理解を深めたり自分の考えを広げたりする。	内容（１）イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 内容の取扱い（２） 生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動を経験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図るよう配慮するものとする。	各レッスン４～５ページ目	3
5.Listening, Writing, Speaking－学習した内容をもとに、情報や考えを理解したり、概要や要点をとらえたりする。	内容（１）エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。 内容（１）ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 内容（２）ウ 事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすること。	各レッスン６ページ目	1
		計	6

B. 目次順にそった対照表（年間指導時数）

※各レッスンについては、内容は上記の通りなので、ここでは主要文法項目のみを記載する。

（第三章英語に関する各科目共通する内容等ウ文法事項）

また、本文中の単語数、新出単語数、新出慣用表現数は、図書、通し番号ページvを参照する。

（第三章英語に関する各科目共通する内容等ア連語及び慣用表現）

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
辞書の使い方とアルファベットについて慣れ親しむ。	第2節 内容の取扱いに当たっての配慮事項（3） 辞書の活用の指導などを通じ、生涯にわたって、自ら外国語を学び、使おうとする積極的な態度を育てるようにすること。	1～2 ページ	1
英語の長母音短母音や子音について、写真やヒントを通して学ぶ。	内容（2）ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。	3～4 ページ	1
コミュニケーションに必要な道具、と題してコミュニケーションの基礎的基本的な知識を復習する。	内容の取扱い（2） 生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動を経験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し	5～12ペー ジ	6
Warm-up と題し、be 動詞と一般動詞の肯定文・疑問文・否定文についてまとめる。	定着を図るよう配慮するものとする。	13～ 18ページ	3
Classroom English を導入する。	内容（2）ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。	19ページ	適宜
Lesson 1 – Welcome to Japan! 高校交換留学生を迎える。	助動詞	20～ 26ページ	6
Lesson 2 – How was your vacation? 南国の樂園を訪れる。	be 動詞の過去形 一般動詞の過去形	27～ 32ページ	6
Lesson 3 – Nature's Symphony 自然の美しさを味わう。	現在進行形 過去進行形	36～ 41ページ	6
Lesson 4 – Technology of	未来表現	42～	

the Future 20年後のテクノロジーを想像する。		47ページ	6
Lesson 5 – Video Games 子供たちに与える好影響と悪影響について討論する。	SVO (O=that 節) SVOO SVOC	48～ 53ページ	6
Lesson 6 – Making a Difference 困っている人を助ける。	動名詞	60～ 65ページ	6
Lesson 7 – Lingua Franca 英語の実用性について考える。	不定詞	66～ 71ページ	6
Lesson 8 – Countries and People of the World 様々な国について学ぶ。	関係代名詞	72～ 77ページ	6
Lesson 9 – Lake Como この世で最も美しいと言われる場所について学ぶ。	形式主語の it 関係副詞 when, where	78～ 83ページ	6
Lesson 10 – Great Monuments 2つの偉大な建造物について学ぶ。	受け身	90～ 95ページ	6
Lesson 11 – Tigers 野生トラの苦しい現状について知る。	現在完了形	96～ 101ページ	6
Lesson 12 – What do you wish in your life? 人生において何が欲しいかを考える。	仮定法 分詞構文 (現在分詞)	102～ 107ページ	6
Reading – Wolfgang Amadeus Mozart モーツァルトの生涯を読み深める。 (レッスン1～12までの文法事項全てを含んだ文章構成)	内容の取扱い (2) 生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動を経験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図るよう配慮するものとする。 内容 (1) エ聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。	113～ 120ページ	6
Review 1, 2, 3 – 各レッスン等の復習をする。	内容の取扱い (2) 生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動を経験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し	33～35ページ、54～59ページ、84～89ページ、108～	12

	定着を図るよう配慮するものとする。	112ページ	
Grammar in Daily Use—学んだ文法事項が、実際の生活場面においてどのように使われているかを学ぶ。	内容（１）イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 内容（２）ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。	58ページ、 88ページ、 111ページ	3
Sing a song—You are my sunshine, Scarborough fair, Oh, Christmas Tree, Amazing Grace を通して、英語の歌や文化的背景に慣れ親しむ。	内容（２）ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。	35ページ、 59ページ、 89ページ、 112ページ	適宜
List of Common Irregular Verbs—よく使う不規則動詞を一覧にして学ぶ。	内容の取扱い（２） 生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動を経験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図るよう配慮するものとする。	121～ 122ページ	適宜
Word/Phrase List—本書であつかう語句を一覧にして学ぶ。また適宜空欄があるので、辞書を使って単語の意味を調べられる。	第2節 内容の取扱いに当たっての配慮事項（３） 辞書の活用の指導などを通じ、生涯にわたって、自ら外国語を学び、使おうとする積極的な態度を育てるようにすること。	123～ 132ページ	適宜
Pronunciation—発音を図と簡単な解説でイメージ化して学ぶ。	内容（２）ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。	133～ 134ページ	1
		計	105